

令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋小学校

学校の教育目標

児童一人一人が個性や能力を発揮し、学校や地域社会の一員として、	
・よく考える子	創意工夫をこらし、主体的に学び続ける子供
・礼儀正しい子	きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子供
・やりぬく子	勤労と責任を重んじ、何事にもねばり強く努力する子供
・健康な子	明るく、心身ともに健康な子供
の育成に向けた教育を推進する。	

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

◎社会的事象を切実感をもって捉え、創意工夫をこらし主体的に学び続ける力	
・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得	
・物事に対する興味・関心の向上と「学びに向かう力、人間性」の確実な育成	
◎主体的に「問い」をもち、社会に見られる諸課題を解決しようとする資質や能力	
・「問い」を追究し解決するための「思考力、判断力、表現力」の確実な育成	

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因		
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	・学習力サポートテスト（R6 5月実施）では6年生の「情報の扱いの項目」において区の正答率より5.9ポイント下回った。また、「書くこと」において区の正答率より12.5ポイント下回った。 ・漢字の習得率の個人差が大きい。 ・支援を要する児童に対しての指導の工夫の課題がある。	・情報と情報との関係について理解し、要旨を捉えたり、要約したりする力が不足している。 ・漢字を練習し、活用する力の積み重ねが不十分である。 ・必要感をもって文章を書く経験が少ない。
算数・数学	・学習力サポートテスト（R6 5月実施）では6年生の「数と計算」、「図形」において区の正答率より6ポイント以上下回った。また「活用」において区の正答率より2.5ポイント下回った。	・問題を論理的に考え、その考えを説明する力が十分に育っていない。 ・知識を使って問題を解いたり理由を説明したりする力が不足している。 ・問題を論理的に考え、その考えを説明する力が十分に育っていない。 ・個に応じた指導に課題がある。 ・知識を使って問題を解いたり理由を説明したりする力が不足している。
社 会	・学習力サポートテスト（R6 5月実施）では6年生と4年生の「思考・判断・表現」において区の正答率より2.6ポイント以上下回った。また6年生の「工業生産」「国土の自然環境と国民生活」において区の正答率より5ポイント以上下回った。	・前年度の学習内容が十分に定着していない。 ・実体験と結び付けて考える経験が少ない。 ・資料をもとに考え表現する力が十分に育っていない。
理 科	・学習力サポートテスト（R6 5月実施）では6年生の「思考・判断・表現」において区の正答率より4.1イント下回った。また「物質・エネルギー」において区の正答率より4.7ポイント下回った。 ・実験・観察結果から、筋道を立てて論理的に考える力がまだ育っていない。 ・自然事象への関心が全体的に低いことが課題である。	・経験や既習事項から予想を立てたり、結果を論理的に考えたりする機会が少ない。 ・学校の授業以外で、実験や観察をする場がほとんどない。 ・自然の事象に触れる機会が少なく、関心が低い。
英 語	・英語を書く力に個人差がある。（高学年） ・英語で表現する力に個人差がある。（高学年） ・学習に対する興味・関心の差が大きい。	・基本となるローマ字の定着に差があり、書くことに抵抗感が見られる。 ・表現することへの抵抗感が見られる。 ・日常生活で英語にふれる機会が少ない。

体育・保健体育	・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(R6 6月実施)では、「ソフトボール投げ」、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」で、都の平均を下回る傾向にある。 ・運動技能に個人差が大きく、疲れやすい児童や体の使い方がぎこちない児童がいる。	・外で体を動かして遊ぶ経験と時間が少ない。 ・日常的にボールを投げる経験が少ない。 ・休み時間、人数制限をしているため、一人一人が体を動かす時間が減った。 ・塾や習いごとがあるなど、日常的に体を動かす時間が不足している。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	・学習力サポートテスト(R7 実施)では、全実施学年で「情報の扱い方に関する事項」が、区の平均を上回るようにする。 ・学習力サポートテスト(R7 月実施)では、6年生で領域「書くこと」が、区の平均を上回るようにする。
	算数・数学	・学習力サポートテスト(R7 実施)では、全実施学年で「活用する力」が、区の平均を上回るようにする。 ・学習力サポートテスト(R7 実施)では、全実施学年で領域「数と計算」が、区の平均を上回るようにする。
	社会	・学習力サポートテスト(R7 実施)では、全実施学年で「思考・判断・表現」の正答率が底上げできるようにする。
	理科	・学習力サポートテスト(R7 実施)では、全実施額年で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が、区の平均を上回るようにする。
	英語	・学習力サポートテスト(R7 実施)では、6年の「思考・判断・表現」が、正答率がさらに向上するようにする。
	体育・保健体育	・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(R7 月実施)では、「ソフトボール投げ」、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」が、都の平均に並ぶようにする。
②授業改善		・一日のタブレット端末、電子黒板等のICT機器活用率を100%にする。 ・学校評価（児童アンケート「授業の内容はよく分かるか」と保護者アンケート「教員は、学習内容が分かりやすく楽しい授業をしている」）で、80%以上の肯定的な評価を得られるようにする。
③家庭との連携		・学校評価（保護者アンケート「保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している」「学校での児童の様子を丁寧に保護者に説明している」）で、80%以上の肯定的な評価を得られるようにする。
④体力向上		・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(R5 6月実施)では、「ソフトボール投げ」、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」が、都の平均に並ぶようにする。

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	・年間をととして、文を書く機会を設け、書く力の育成に努める。 ・物語を扱う単元で、叙述を基に、登場人物の気持ちや場面の様子、段落や文章の内容を捉える力が高まるようにする。 ・学級文庫や学校図書館、日本橋図書館、電子書籍を活用した読書活動を促進して、情報と情報との関係について理解し、要旨を捉えたり、要約したりする力が高まるようにする。 ・国語の学習以外でも文章で表現する機会を増やし、児童が自ら意欲的に文章を書くための資質を高める。
算数・数学	・タブレット、電子黒板等のICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力を高める工夫をする。 ・ミライシードやキュービナを活用して、一人一人のつまづきに対応した問題演習を増やし、基礎学力の定着を図る。 ・学んだ内容を活用する場面が設定できるように、少人数指導を工夫する。

	・自分で課題をもち、その課題達成に向けて主体的に取り組めるよう少人数指導を充実する。
社会	・社会的事象についての理解度が向上するように授業を工夫する。 ・児童が課題（「問い」）をもち、その課題の解決に向けて主体的に取り組めるよう、問いの予想と振り返りのある授業を目指して改善に取り組む。 ・単元の導入場面で、地域人材・資源との出会いを演出し社会的事象を自分事として捉えられるようにする。 ・課題解決の場面では、地域資源を観察・調査したりする活動を意図的に取り入れることで、主体的・対話的で深い学びが実現するように工夫する。
理科	・予想を立てる場面、結論を考える場面で、話し合いの充実を図る。 ・校外学習などで、自然の事象を観察する機会を意図的に取り入れる。 ・観察や実験を丁寧に行うなど、「電気に関する内容」の学習指導、「水に関する内容」の学習指導を工夫する。 ・自然事象への関心を高める導入、実験器具の扱い方、筋道を立てて論理的に考える力の育成に重点を置いた授業を工夫する。
英語	・興味をもって話を聞けるよう、掲示物を生かしたり、ALTを活用したりする。 ・ミニプリント等を用いて、復習時間（書く時間）を設ける。 ・少人数で段階的に発表するなど実施方法を工夫して、表現活動をしやすいとする。 ・オンライン英会話を実施するなど、習得した英語を活用する機会を作る。
体育・保健体育	・運動技能の個人差を埋められるような授業の工夫をする。 ・体の基本的な動きが身に付くように授業を工夫する。 ・外遊びや放課後遊びなどの実施回数を増やすなど、体を動かす機会を確保する。 ・ボール運動の単元で「投力」を意識した学習活動を多く取り入れる。 ・体づくり運動の単元で、コオディネーショントレーニングを多く取り入れる。

②授業改善

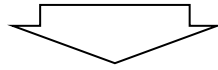
取組Ⅰ	主体的に「問い」を追求する児童の育成を目指して、地域教材の開発とともに、教材との出会いを工夫し、「問い」「予想」「振り返り」に重点を置いた社会科・生活科の授業づくりに取り組む。
取組Ⅱ	教員相互で授業を見合うＯＪＴウィーク、指導法を伝え合うＯＪＴ茶話会などで、タブレット端末、電子黒板等のＩＣＴ機器の有効な活用方法について学び合い、授業改善に取り組む。

③家庭との連携

取組Ⅰ	「My Study」の取り組み方、様々な取組事例を紹介するなど、さらに児童の主体的な学びが促進できるように、家庭との連携を図りながら、指導を継続していく。
取組Ⅱ	12月末に個人面談（通知表プラス）において、四教科テストの観点別得点やノートや作品などを使って学校での学習状況や学校生活の様子について、きめ細かく保護者へ伝える。

④体力向上

取組Ⅰ	児童の運動機会の確保に向け、「放課後遊び」の回数を増やすとともに、生活時程の見直しを図り、休み時間の時間を延長する。
取組Ⅱ	学習の中で、「投げる力を高める動き」「握力を高める動き」「柔軟性を高める動き」「体幹の筋力を高める動き」を積極的に取り入れる。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	・行事の振り返り作文など、年間をと おして文を書く機会を設けること で、児童が自ら意欲的に文章を書く ための資質を高めることができた。 書く力の育成に効果があった。	・登場人物の気持ちや場面の様子、段 落や文章の内容を捉える力を十分に 高めることができなかった。 今後も学級文庫や学校図書館、日本 橋図書館、電子書籍を活用した読書 活動を継続して促進していく。
	算数・数学	・タブレット、電子黒板等のＩＣＴ機 器を有効に活用し、体験的な操作の 視覚的理解を工夫した。その結果、 児童の学習意欲を引き出し思考力・ 判断力・表現力を高めた。 ・家庭学習においても活用を促し、基 礎学力の定着を図ることができた。	・加配教員と(区)算数講師が中心とな り、算数少人数指導を工夫するによ って、児童が自分で課題をもち、そ の課題達成に向けて主体的に取り組 めるよう指導の充実を図る。
	社会	・授業の導入を工夫したことで、児童 が課題（「問い」）をもち、その課題 の解決に向けて主体的に取り組める ようになった。 ・単元の導入場面で、地域人材・資源 との出会いを演出したことで、児童 が社会的事象を自分事として捉える ことができた。	・社会的事象についての理解度があが るように、継続して授業改善に取り 組む。 ・主体的・対話的で深い学びが充実す るよう、課題解決の場面では、地域 資源を観察・調査したりする活動を 意図的に取り入れる。
	理科	・導入を工夫し学習意欲を高めた。ま た、予想を立てる場面、結論を考え る場面で、話し合いの充実を図るこ とができた。 ・校外学習などで、自然の事象を観察 する機会を意図的に取り入れること ができた。	・「物質・エネルギー」「生命・地球」 の学習指導を工夫する。 ・自然事象への関心を高める導入、実 験器具の扱い方、筋道を立てて論理 的に考える力の育成に重点を置いた 授業改善を図る。
	英語	・ミニプリント等を用いて、復習時間 （書く時間）を設けた。少しずつで あるが英語の「書くこと」への苦手 意識は低下している。 ・オンライン英会話を実施したことで、 習得した英語を活用する機会がで き、学習意欲の向上につながった。	・抵抗感なく表現活動がしやすくなる ように、少人数で段階的に発表する など、実施方法の工夫を図る。 ・ＡＬＴを活用することで、興味をも って話が聞けるように、指導方法を 工夫する。
	体育・保健体育	・学習過程の中で、基本的な体の動き を高める運動を取り入れたことで、 基本的な体の動きが高まった。 ・チームや学習グループの組み合わせ を工夫することで、運動技能の個人 差を解消できるようにした。 ・外遊びや放課後遊びなどの実施回数 を増やすなど、体を動かす機会を確 保することができた。	・さらなる体力向上をめざして、ボール 運動の単元で「投力」を意識した 学習活動を多く取り入れる。 ・引き続き、体づくり運動の単元で、 コーディネーショントレーニングを 多く取り入れ、基本的な体の動きの 向上を図る。

② 授業改善	・教材との出会いを工夫し、地域教材の開発とともに、社会科・生活科を中心に教材との出会いを工夫した授業づくりに取り組んだことで、児童が主体的に「問い」を追求するようになった。	・児童の学習意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力が高められるように、教員相互で授業を見合ったり、指導方法を紹介し合ったりする。また、タブレット端末、電子黒板等のＩＣＴ機器の活用実践を共有し校内で推進する。
③ 家庭との連携	・12月末に個人面談（通知表プラス）において、四教科テストの観点別得点やノートや作品などを使って学校での学習状況や学校生活の様子について、きめ細かく保護者へ伝えることができた。	・「My Study」の取り組み方、様々な取組事例を紹介するなど、さらに児童の主体的な学びが促進できるように、家庭との連携を図りながら、指導を継続していく。
④ 体力向上	・「放課後遊び」の回数を増やしたこと、生活時程の見直し休み時間を長くしたことで、児童の運動機会をたくさん確保することができた。 ・学習の中で、「投力・握力・柔軟性を高める動き」や「体幹の筋力を高める動き」を積極的に取り入れ、体力向上に努めた。	・児童の体力状況を踏まえ、基礎体力向上に留意した体力向上プランを作成する。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、都のＴスコアと比べ平均を下回っている「投力」「握力」「柔軟性」「体幹を支える力」が向上するように、単元に応じて、授業の中で意図的に動きを取り入れる。